

国際協力の現場で光る 日本の知恵と技 —海外での土木技術者の挑戦—

Japanese knowledge and technology flourishing in international cooperation activity
—Overseas challenges by civil engineers—

特集担当主査：吉見昌宏

特集企画担当：川口 泉、スレン ソッキアン、津留宏介、三上貴仁、横洲弘武

えるために前進することが必要ではないだろうか。

そのためには、たとえば、途上国における課題の解決に長年取り組んだ土木技術者が、あるいは、日本国内でのインフラ整備・運営の経験を活かして海外での課題に取り組んだ土木技術者が、相手国の関係者とのようなやり取りをして対処したか、特に相手国特有の条件によって起きている問題に対しどのような知恵を出して解決の方向性を見つけたか、その際にどんな経験が役立ったかを知ることは有益であろう。また、海外のフィールドで研究に取り組む土

木技術者に、相手国の問題解決に相手国関係者とのようなやり取りをしてアプローチしたか、双方の知見・情報をどのように集結し新たな価値を生み出したか、そのためにどんな知見・経験が役立ったかなども有益な情報であろう。

本特集では、国際協力に携わる「土木技術者」に焦点を当てた。冒頭のインタビューでは、若い頃から長い間海外業務を経験された廣瀬典昭土木学会第103代会長から、わが国が蓄積した土木技術を駆使し国際貢献する意義や次代を担う若い土木技術者の育成に向けた学会の取り組みの方

2015年2月、政府や政府関係機関による国際協力活動の今後の指針となる開発協力大綱が閣議決定された。この大綱は、わが国が、各種の課題を克服して実現した高度成長期の体験、同時にアジア諸国等に対して行った協力の中で得た成功や失敗の経験・知見・教訓、また震災復興などを活用し、国際社会の抱える課題への対処に積極的に寄与していくことの意義を改めて強調している。

また、現在の国際社会では、民間企業、地方自治体、NGOをはじめとする多様な主体がますます重要な役割を果たしていることを踏まえ、国際協力の推進にあたって、多様な力を結集することが重要であることも強調している。

日本の土木技術者は、この大綱が示すように、さまざまな分野・立場で、さまざまな知恵と技を使って、世界に貢献するよう期待されていることを認識し、また、その期待に応

The Development Cooperation Charter approved by the Cabinet in February 2015 highlighted the significance of contributing toward efforts to overcome the challenges faced by international community, taking advantage of the experience that Japan obtained during the high economic growth period by overcoming various challenges, the expertise accumulated through development assistance to Asian countries, and lessons learned from reconstruction after earthquake. The Charter also emphasized the importance of mobilizing a wide range of resources including private companies and local governments. As indicated in the Development Cooperation Charter, civil engineers in Japan are expected to meet the expectations of contributing to the world by utilizing a variety of Japan knowledge and technology in various fields and positions. This special issue presents actual examples of how challenges in overseas projects were overcome, as well as messages to people who are willing to challenge themselves overseas from civil engineers in various fields and positions involved in international cooperation.



写真1 約30年ぶりに再会した橋梁維持管理担当公団職員と日本人専門家(コンゴ民主共和国)(写真提供:辰巳正明)



写真2 老朽化した水道管を確認する上水道担当職員と日本人専門家(ミャンマー)(写真提供:谷本美加/JICA^(注1))



写真3 メコン川にかかる橋梁の建設現場のスタッフ(カンボジア)(写真提供:久野真一/JICA)



写真4 水害軽減について打合せ中の村長、住民活動家、日本人専門家(インドネシア)(写真提供:谷本美加/JICA)

向性について語っていただいた。続いて、30年ほど前から現在に至るまで年代を追って、国際協力の現場に携わって来られたさまざまな分野・立場の土木技術者の方々から、環境が大きく異なる海外の現場において、課題にどのように向き合い進んできたか、あるいは、進もうとしているか、現場の臨場感のある実例やこれから海外の現場にチャレンジしたい人たちへのメッセージとともに紹介していただいた。結びの座談会では、研究者、建設会社、ODA実施機関の方々にご登壇いただき、国際協力の今後の展望とそ

の経験の活用も視野に入れ、日本から議論していただいた。

本特集が、新たな国際協力の担い手の候補者である読者の方々に海外での仕事の具体的なイメージをつかんでいただくことで、国際協力の道に進む意欲を高めてもらうきっかけになり、また、わが国の土木技術者の方々に誇りをもって海外の仕事に取り組んでいただくきっかけにもなれば幸いである。

(注1) JICA(独)国際協力機構